

## 編集委員異動（平成十六年度）

平成十六年四月一日付で皿井舞は情報調整室研究員に採用され着任した。

平成十六年四月一日付で美術部広領域研究室研究員津田徹英は美術部主任研究員に昇任した。

平成十六年四月一日付で美術部広領域研究室長山梨絵美子は情報調整室長に配置換となった。

平成十六年四月一日付で美術部長中野照男は広領域研究室長事務取扱を命じられた。

## 美術部報（平成十六年度）

美術部オーブンレクチャー

第三十八回美術部オーブンレクチャー「日本における外来美術の受容について」を研究所セミナー室において左記のとおり開催した。

十一月五日（金）午後一時三十分～四時

大谷光瑞と仏教の流伝調査 九州国立博物館（仮称）設立準備室 墓信 祐爾  
若き美術史研究者の夢―尾高鮮之助の旅と仕事― 中野 照男

十一月六日（土）午後一時三十分～四時

黒田清輝と世紀末のバリ ―西洋人からの書簡を通して― 武蔵大学 小山ブリジット

明治30年の黒田清輝

田中 淳

『日本美術年鑑』の刊行

美術部編集による『日本美術年鑑』昭和十五年度版（平成十四年一月～十二月の記事）は平成十七年三月に刊行された。

黒田清輝巡回展

昭和五十二年以来、毎回開催してきた黒田清輝巡回展（近代日本洋画の巨匠 黒

美術部報

田清輝展）を、平成十六年度は四月二十四日（土）から六月六日（日）まで新潟県立近代美術館で開催した。

## 研究会

四月二十八日

日本の中世彫刻研究で用いられる「宋風」という

言説をめぐるいくつかの問題について

津田徹英

五月二十六日

明治期府県博覧会について

鈴木廣之

六月二十九日

再興日本美術院のひとびと

塩谷 純

―あるいは大正期の大観―

韓国美展の東洋画部における画風変化

李 仲 熙

―韓国の近代画風の成立について―

啓明大学校

七月二十八日

モノの価値とコレクションの形成

田中 淳

―黒田清輝と住友家―

九月二十二日

ワラク遺跡について

中野照男

十一月二十四日

「海の幸」誕生

田中 淳

名作ものがたり―青木繁《海の幸》の百年―

石橋財団石橋美術館 植野健造

《海の幸》再考―ものとしての絵画― 石橋財団 石井 亨

敦煌壁画に見る観経变相相生怨図の図像について 勝木言一郎

十二月二十二日

ミニ・シンポジウム

高麗初期の石造菩薩像について 徳成女子大学校 崔 聖 銀

コメンテーター 武蔵野美術大学 朴 亨 國

伝明兆筆雲谷等益補作「二十八祖像」（崇福寺蔵） 司会 津田徹英

二月九日

について

情報調整室 綿田 稔

ミニ・シンポジウム

三月十六日

美術交流におけるモノ・人・ことば

美術交流におけるモノ・人・ことば

美術交流におけるモノ・人・ことば

日本の外国文化理解

—人よりモノ、外交より貿易中心の—

東京藝術大学 佐藤道信

“The Loaded Language of Cross-Cultural Evaluation”

(文化間評価の偏りあることは)

スタンフォード大学 クリスティン・グース

三月三十日

来沖画家の作品について

—描かれた紅型を中心に—

沖縄県立芸術大学 小林純子